

## 平成17年度第5回理事会議事録

日 時 平成17年11月9日(水) 14:00～

場 所 日本体育協会 理事・監事室

出席者 <理事>

森会長、長沼副会長、宮田副会長、岡崎常務理事、石川常務理事、泉常務理事、石樽、大谷、尾崎、監物、小嶋、斉藤、鈴木、瀬尾、竹田、武田、豊島、中山、樋口、古川、松田、森(正)、渡邊の各理事

<委任>

佐治副会長、奥田、木下、篠宮の各理事(議長に委任)

理事総数27名、うち出席23名、委任4名、計27名で寄附行為第32条に基づき理事会成立。

### 報告事項

#### 1. 会務関係

(1) 平成18年度公営競技団体への補助金要望について (岡崎常務理事)

本年7月開催の第3回理事会で会長一任事項となっていた平成18年度公営競技団体等の補助金・助成金の要望については、日本自転車振興会に対する補助金要望を平成17年度に対して、1千3百31万3千円、5.84%増の2億4千1百14万8千円とした。

また、従来要望していた日本小型自動車振興会の補助金については、平成15年度を最後に補助金が打ち切りとなっているため、要望しない旨を報告。

(2) 国民スポーツ推進キャンペーン事業について (岡崎常務理事)

平成18年度「国民スポーツ推進キャンペーン」のオフィシャルパートナーとして、コクヨ株式会社と合意した。協賛ランクは「オフィシャルパートナーA」、契約カテゴリーは「文具・オフィス用品、オフィス家具」としている。そのほか「サポーティングカンパニーB」ランクにおいて、新たにセコム株式会社、オカモト株式会社の2社と契約締結した旨を併せて報告。

また、第60回国民体育大会夏・秋季大会において、キャンペーンPR活動として「みんなでスポーツを!」と「SPORTS FOR ALL」の2種類の標語看板とオフィシャルパートナー各社の社名看板を夏季大

会では4競技会場、秋季大会においては、16競技会場及び国体役員懇談会会場に掲出した。

なお、夏・秋大会それぞれに一般来場者を対象としたPRイベントを開催し、「簡単エアロビクス」教室と「スポーツ選手の食事と栄養」に関する講習を中心に、オフィシャルパートナー各社の関係物品を展示し、飲料サンプリングを実施した。

#### 質疑応答

豊島理事 日本自転車振興会への補助金要望の中で、スポーツ科学研究事業の子どものスポーツにおける食育プログラム開発事業については、大変興味深いことなので是非実施して欲しいと思うが、補助金がつかなくても実施するのか。

岡崎常務理事 会長とも充分相談し、決定したいと思う。

豊島理事 次に協賛社の件であるが、新たに契約するコクヨ株式会社、セコム株式会社、オカモト株式会社の契約年数について知りたい。

岡崎常務理事 基本的に単年度であり、その後は契約を更新する形式をとっている。

#### (3) 平成17年秋の勲章・褒章受章者について (大谷部会長)

去る11月3日に勲章及び褒章の受章者が発表された。

本会推薦の勲章受賞者は、日本体操協会元副会長の小野 喬さんが旭日中綬章、日本陸上競技連盟元専務理事の佐々木 秀幸さん並びに日本ハンドボール協会元副会長の中澤 重夫さんがそれぞれ瑞宝小綬章を受章された。

褒章受章者については、日本パワーリフティング協会会長の齋藤 浩さんが藍綬褒章を受章された。

また、日本オリンピック委員会からの推薦により、モントリオールオリンピック・柔道無差別級で金メダルを獲得された上村 春樹さん並びにロサンゼルスオリンピック・体操個人総合等で金メダルを獲得された具志堅 幸司さんが紫綬褒章を受章された。

#### (4) (財)日本体育協会制定スポーツ顕彰規程(案)について (大谷部会長)

去る7月開催の第3回理事会において報告したとおり、「日本体育協会制定スポーツ顕彰規程(案)の策定」に関し、加盟・栄典部会において骨子を取りまとめていたが、このほど賞の名称は未定であるが、スポーツ顕彰規程(案)を資料のとおり策定した。目的は「長年にわたり、スポーツを実践するとともに、広く国民に感動や勇気を与え顕著な功績をあげられた

方々に対し、顕彰規程に基づく賞を授与し、その功績をたたえ、もってより一層の生涯スポーツ振興の醸成に資する。」とした。

選考については、選考委員会を立ち上げ、そのメンバーは、総合企画委員会加盟・栄典部会の委員を中心に若干の学識経験者を加え構成し、賞の名称も含め最終的なとりまとめについては、森会長と大谷部会長に一任いただきたい旨を報告。

#### 質疑応答

- 尾崎理事 スポーツ顕彰規程(案)の資料記載の第2条対象について「原則として、オリンピック競技大会、各競技別世界選手権大会等に出場するトップ選手を除く。」とあるが具体的にどういう主旨であるのか。
- 森会長 オリンピック競技大会、各競技別世界選手権大会等に出場しているトップ選手は各種顕彰、表彰等を受けている選手が多くいる。一流選手ではなく、例えば、95歳で陸上競技100mで世界新記録を樹立した原口幸三さんなど、生涯スポーツを一生懸命続けられている方々を表彰してさしあげたいということが主旨である。
- 尾崎理事 その観点からすると第2条(1)に「当該競技において、世界記録等を樹立した個人またはグループ」と記載されており、世界最高記録を出している高橋尚子などのオリンピック選手もいるので、規程の主旨が一貫していないように思う。
- 森会長 主旨は一貫していると思う。高橋尚子選手は国民栄誉賞等を受賞している。
- 尾崎理事 そういう選手は除かれるということで理解すれば良いのか。
- 森会長 そうということである。規程にあるように、各地域において80歳、90歳以上で一生懸命競技を行っている方々がいる。そういう方に賞をさしあげたいということである。
- 尾崎理事 私は弁護士でもあるので文言については慎重を期した方が良いと思う。「当該競技において、世界記録等を樹立した個人またはグループ。」という記載は、規程として少しおかしいと思う。
- 斉藤理事 私は静岡陸上競技協会の会長でもあり、マスターズの大会で、大会新記録が多く出て大変興奮したが、そういう選手達は対象と考えていいのか。
- 岡崎常務理事 会長の主旨は、95歳という年齢層の世界記録を樹立したという意味で、オリンピック選手が出した世界記録とは主旨が違う

- ということで理解いただきたい。
- 尾崎理事 主旨はよくわかったが、規程なので一般の人々に誤解を招かないような記載をしたほうが良いと思う。
- 岡崎常務理事 今後事務局で、誤解のないような記載の仕方を考慮していく。
- 豊島理事 主旨はこのままでもよく理解できるが、世界記録等というのは少し厳しすぎるかと思う。また、1名又は1グループというのは少ないのではないか。
- 森会長 その辺りは柔軟に考えて良いのではないかと考えている。
- 長沼副会長 あくまでも原則と考えれば良いのではないか。
- 大谷理事 主旨は、記録競技だけでなく、同じ競技を長く続けている方々、例えば世界一周をしたヨットの方や90歳のラグーマンなど、記録を競わない競技もあるので、高齢になってもスポーツを続けている方々を対象にと考えている。
- 尾崎理事 世界記録、世界最高記録等、各競技で色々な言葉の定義があるので、同じコンセンサスになる様に言葉づかいや、注意書きに気をつけなければならないと思う。
- 古川理事 トップアスリートは対象ではないこと、年齢の記載や生涯スポーツという言葉が規程の中に記載したほうがよりわかりやすいと思う。
- 岡崎常務理事 「生涯スポーツ」という内容は、目的に記載があるので原文のまま理解していただけたらと思う。
- 古川理事 誤解されないよう年代における世界記録ということを明確にされたほうが良いと思う。
- 森会長 あまり難しく考えず、一生懸命スポーツをしている方々を表彰してさしあげたいという考えをよく理解いただきたい。
- 監物理事 90歳まで出来るスポーツと出来ないスポーツもあるのでそのあたりも加味していただきたい。
- 森会長 いろいろな意見を参考にさせていただき、整理したい。

## 2. 国民体育大会関係 (泉委員長)

### (1) 第60回国民体育大会夏・秋季大会の終了について

夏季大会は、秋篠宮同妃両殿下並びに高円宮妃殿下のご臨席を仰ぎ、去る9月10日から13日までの4日間、岡山県倉敷市他6市2町で開催され、今大会は既存施設の有効活用という観点から、夏季大会で実施することとなったフェンシング競技とバドミントン競技を加え、正式競技9競技と公開競技1競技の計10競技に、47都道府県から選手・監督7,322

名、本部役員396名、計7,718名が参加した。

大会期間中は、台風14号の影響により一部競技日程の変更が余儀なくされたものの、すべての競技を滞りなく終了した。

秋季大会は、10月22日から27日までの6日間、岡山市他12市10町1村において、正式競技28競技と公開競技1競技の計29競技に、47都道府県から選手・監督18,203名、本部役員813名、計19,016名が参加した。

開会式では、天皇・皇后両陛下のご臨席を賜り、天皇陛下よりこれまで国体発展に尽くされてきた大会関係者に対し、温かい激励とねぎらいのお言葉を賜った。

大会期間中は、天候にも恵まれ、すべての競技を滞りなく終了した。総合成績は、岡山県が男女総合成績及び女子総合成績で念願の初優勝を果たし、天皇杯・皇后杯の両杯を獲得した。

また、国民体育大会への県民参加、生涯スポーツ作りをねらいとして実施したデモンストレーションとしてのスポーツ行事は、夏季、秋季大会で、延べ21行事に11,096名が参加した。

次に、ドーピング・コントロール検査については、夏季大会では、競技外検査(フェンシング競技)として8検体、競技会検査として水泳競技(競泳・飛込み)とバドミントンの2競技で13検体、合わせて21検体を実施した。

秋季大会では、競技外検査としてテニス競技8検体、競技会検査としてレスリング競技をはじめ6競技で26検体の計34検体を実施した。

検査の結果、夏季大会は全て陰性で、ドーピング違反がなかった旨、IOC認定分析機関である三菱化学ビーシーエルより報告を受けた。秋季大会については、本日現在まだ報告を受けていないため、検査結果が判明次第、個人名が特定できない要領にて、本会ホームページでの公表と関係機関・団体へ文書により報告する旨を説明。

(2) 第60回国民体育大会秋季大会ドクターズミーティングの終了について

秋季大会開会式の前日の10月21日に岡山市内のホテルで開催、各県の帯同ドクター代表等160名が出席した。

今回で12回目となる本ミーティングは、原点に返り「国体帯同ドクターのあり方」についてのシンポジウムや今回初めて「国体帯同アスレティック・トレーナー」を取り上げたシンポジウムが行われ、帯同ドクターのみならず、国体におけるアスレティック・トレーナーの役割についても活発な意見交換が行われた旨を報告。

(3) 第62回国民体育大会冬季大会スケート・アイスホッケー競技会の開催

地について

国民体育大会冬季大会においても、開催3年前に開催地を決定することになっているが、競技会を行うための施設や設備などが充実している都道府県が限定されていることから、特定の都道府県に依頼する状況となっている。一方、開催可能な都道府県についても、開催に係る経費負担の対応が困難な状況にあり本会としても大変苦慮している。

現在は、冬季大会の継続実施を前提に関係競技団体と整理・調整を行っており、年内には開催地を決定できるよう取り組んでいる。

については、開催地の選定及び決定について、諸手続きも含めて森会長と泉委員長に一任願いたい旨を報告。

### 3. 国際交流事業関係 (瀬尾委員長)

#### (1) 第9回日韓スポーツ交流事業成人交歓交流(受入)終了について

本年度で9回目となる日韓スポーツ交流事業の成人交流は、去る9月30日から10月6日までの7日間、岩手県にて韓国の成人175名を受け入れて実施した。

本交流事業では、岩手県で同時期に開催された第18回全国スポーツ・レクリエーション祭への参加を中心とし、韓国選手は9競技に参加した。韓国選手団の成績については資料のとおりであるが、受入地の岩手県関係者及び対戦した参加者との親善交流等に成果をあげ、大変有意義な交流事業となった。

#### (2) 中華人民共和国第10回運動会の視察終了について (泉常務理事)

中国国家体育総局より、日本のスポーツ団体関係者で編成された視察団を招待したい旨の招請状が日中友好協会理事長宛に届き、JOCを通じて本会及び関係団体で構成された9名が視察した。本会から泉常務理事をはじめ3名が、去る10月11日から14日までの4日間、中国・江蘇省南京市を中心に開催された第10回中国運動会の開会式および水泳、体操競技等を視察した。

中国運動会は、中国最大のスポーツイベントであり、今大会は過去最大の選手・役員等約2万人が参加する大会であった。中国は、2008年の北京オリンピックを控え、テストイベントとしてこの大会を位置づけ、盛大に開催された旨を報告。

#### 質疑応答

大谷理事 参考までに武術が加わったとあるが、どのような武術か。

竹田理事 中国武術のことで、武術(うーしゅう)と言い、太極拳等幾つか

の種目がある。中国は北京オリンピックの正式競技として入れたかったが、できなかった。第10回中国運動会にIOCのロゲ会長はじめIOC委員に、武術を視察してもらい2008年のオリンピックにという期待があったと思う。

なお、中国は2008年のオリンピックだけでなく、2007年に長春で冬季アジア競技大会、2010年の広州アジア競技大会、そして冬季オリンピックの立候補も視野に入れ非常にスポーツに力を入れている。

#### 4. 日本スポーツマスターズ関係 (岡崎委員長)

##### ・日本スポーツマスターズ2005の終了について

本年度で5回目となる「日本スポーツマスターズ2005富山大会」は、去る9月22日から26日までの5日間、富山県下8市3町・26会場にて開催され、昨年同様12競技に全国から6,154名という本大会史上最多の選手・監督が参加し、熱戦を繰り広げた。

また、開会式は、高円宮妃殿下のご臨席を賜り、参加者の親睦、交流を目的とした前夜祭的な形式で行われ、選手、監督関係者867名が参加するとともに、日本スポーツマスターズの広報・PRにご協力いただいているシンボルメンバーも参加し、華やかな雰囲気で行われた旨を報告。

#### 5. 生涯スポーツ推進事業関係 (石川委員長)

##### (1) 平成17年度「体育の日」中央記念行事の終了について

去る10月10日に本会及び文部科学省、日本スポーツ振興センター、日本レクリエーション協会の4団体の共催により実施した。

オープニングでは開会行事に引き続き、子ども体力向上キャンペーンの一環として、全国の小学生から募集したポスター及び標語の優秀作品の表彰式を行い、計6名が表彰された。

当日は、あいにくの雨天となり中止となったプログラムもあったが、実施されたイベントには多くの報道陣が取材に訪れ、近年低下が指摘されている子どもの体力に絡めての取材もあり、イベント開催の目的の一つである「体を動かすことの楽しさや大切さを多くの子ども達に知ってもらいたい」という意図を参加者だけでなく、全国に伝える良い機会になった旨を報告。

##### (2) 18回全国スポーツ・レクリエーション祭の終了について

「いきいき わくわく てんこもり！」をスローガンに去る10月1日から4日までの4日間、岩手県において開催された。

開会式はあいにくの雨模様であったが、豊かな自然、歴史、伝統など全国から集まった参加者や観衆に岩手県の魅力を大いにアピールする式典であった。

本大会の都道府県参加種目については、県下13市町村で18種目が行われ8,296名が参加、フリー参加種目には県下9市町村で11種目が行われ、4,352名が参加し、盛会裏に終了した旨を報告。

以上の諸報告をいずれも了承後、15時15分閉会。

なお、次回理事会は、平成18年1月11日(水)15時から開催し、会議終了後16時から記者クラブとの懇親会を開催することを確認。